

令和4年度  
学校関係者評価報告書

新潟医療福祉カレッジ

令和 5 年 6 月 12 日

## 令和 4 年度 学校関係者評価報告書

学校法人エイシンカレッジ  
新潟医療福祉カレッジ  
学校関係者評価委員会

学校法人エイシンカレッジ 新潟医療福祉カレッジ 学校関係者評価委員会は、令和 4 年度学校自己評価の結果に基づき学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり報告致します。

### 1. 基本方針

本校における学校関係者評価は、自己評価結果を基に課題を明確にし、関係者にて組織された学校関係者評価委員から意見を聞いたうえで、学校運営及び教育活動の改善を図ることを基本方針とする。

また、公表については「新潟医療福祉カレッジ 学校評価実施規定」に則り実施するものとする。

### 2. 開催日時及び場所

日時：令和 5 年 6 月 12 日（月） 15:10～16:40

場所：新潟医療福祉カレッジ 1 号館 202 教室

### 3. 出席者

委員会の出席者は以下のとおり。

所属	役職	氏名
<委員長>		
新潟医療福祉カレッジ	学校長	山田 允宣
<外部評価委員>		
特別養護老人ホーム虹の里	園長	砂井 一哉
介護老人保健施設いわむろの里	部長	阿部 恵子
<内部評価委員>		
新潟医療福祉カレッジ	副校長	星野 哲裕
新潟医療福祉カレッジ	副校長	星野 和幸
新潟医療福祉カレッジ	教務部長	久住 雅史
新潟医療福祉カレッジ	学科長	須田 恵子
新潟医療福祉カレッジ	事務局長	田家 愛
新潟医療福祉カレッジ	課長	田村 修一
新潟医療福祉カレッジ	主任	福岡 宏之

#### 4. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 出席者紹介
- (4) 自己評価結果に関する報告及び意見交換
- (5) 閉会

#### 5. 自己評価結果に関する報告及び意見交換について

##### (1) 教育理念・目標・人材育成像等

- ・学生の多様性への対応や教育的アプローチについての取り組みを教えて欲しい。
  - ⇒障害のある学生には個別性を考慮し、面談等によって各々の特性や状況を把握したうえで希望する内容が実現できるよう、合理的配慮に努めている。
  - ⇒近年、通信制高校からの入学者が増加傾向にあることを受け、今年度より通信制で専門士が取得できるオンライン通信科を設置。本人のニーズに応じてオンライン授業も取り入れている。

##### (2) 学校運営

- ・Google Workspace を採用するなど情報システム化を推進しているが、IT 環境に変化はあるか、学生の IT スキルは身に付いているか。
  - ⇒医療秘書科の授業においてタブレット端末を採用している。その他の学科はスマートフォンを使用。
  - ⇒PC スキルは高いレベルではないため、それを向上させるために Word や Excel の授業を取り入れたり、一人一人にメールアドレスを付与し Google ツールが使用できる環境を提供している。

##### (3) 教育活動

- ・関連分野における業界等との連携を強化し最新の知識や実践的な技能を修得できるよう取り組んでいる。
- ・職員の能力開発等スキルアップの研修は行っているか。
  - ⇒各自が年3回の研修を受講し、それを活用した成果を出すよう計画的に取り組んでいる。また、教育支援チームを作り指導力向上に努めるとともに、月1回の教職員への伝達研修を実施して、育成の充実を図っている。
- ・教職員の研修内容が外部から見えないため、保護者にも理解してもらえるよう、ホームページ等で公開することも検討してほしい。

#### (4) 学修成果

##### (介護福祉科)

- ・ 国家試験合格率および就職率 100%を達成。また、授業の一環として卒業生を招き、現場での実践内容について発表してもらうことで最新の有益な情報を取り入れることができている。
- ・ 実践発表の授業には何年くらい勤務した卒業生に来校してもらっているか。  
=> 3年～5年勤務した卒業生に協力してもらっている。

##### (介護福祉士基礎学科)

- ・ 留学生に対する試験対策方法が確立されてきたため、国家試験合格者が大幅に増加し、資格取得率の向上が図られた。
- ・ 一方、日本語能力に差があるため、読み書きの習慣付けなどの授業も充実させていく必要がある。
- ・ 留学生は語学力が低いと能力の差が顕著に表れるため、施設でも日本語教育を行っている。
- ・ 職場での日本語能力に不安があるので、更なる向上が望ましい。  
=> 個々に差があるため、各々のレベルに合わせたプログラムで教育していくことが重要と考えている。
- ・ 国家試験に不合格の場合、翌年は再受験しているか。  
=> 再受験は個人の判断に任せている。

##### (医療秘書科)

- ・ 卒業前での就職率 100%を達成。1 on1 ミーティングの実施により関係性が築けているため、退学者 0名であった。
- ・ コミュニケーションが不得意な学生が多いため、社会人に必要なスキルが身に付くよう今年度から心理学授業も取り入れて対応している。

##### (社会福祉科・社会福祉専攻科)

- ・ 社会福祉士国家試験の合格率が 80%であり全国平均を超える好成績を残した。
- ・ キャリア教育の一環として卒業生を招き情報交換をすることで、関係性の構築と継続性を図っている。

##### (福祉心理専攻科)

- ・ 学科特性として対人関係が課題であるため、1on1 ミーティングとオンライン授業により心理的負担を軽減。その結果、退学者 0名であった。

(5) 学生支援

- ・配慮が必要な学生が年々増えてきているので、定期的に面談をして悩みを早期に拾い上げていくことで対応している。
- ・卒業後何年くらい勤務したか等、定着率の確認はしているか。  
=>調査は行っていない。

(6) 教育環境

- ・スマートフォンは SNS 等授業と関係のないことをしていても分かりにくいいため、パソコンの方がいいのではないか。
- ・防災・避難訓練の一環として、職員に対する AED 研修を実施した。
- ・災害時の留学生に対してのルールや指導体制は整っているか。  
=>一斉連絡手段はあるが、あらゆる状況に応じたルールは無い。施設で BCP に取り組んでいると聞いているので、参考にさせていただきたい。

(7) 学生の受入れ募集

- ・社会のニーズと変化に対する受け皿になれるように努めている。
- ・オープンキャンパスへの保護者参加はどのような状況か。  
=>約7割の保護者が参加している。

(8) 財務

- ・常勤職員と非常勤講師の割合について予算規定はあるか。  
=>予算規定は無いが、学科ごとの配置基準を作成し、それを元に必要に応じて講師依頼を適宜行っている。

(9) 法令等の遵守

- ・特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・新型コロナウイルス感染症に関する価値観も変わりつつあるため、ボランティアについては積極的に対応していきたいと考えている。